

トランス増設工事ご提案（EMS事業部より）

生産設備やユーティリティ設備の増設により電気容量が増える際には、
高圧受電設備の容量も増やす工事が必要となる場合がございます。

電気容量を増やすには、

- ◆既存トランスを、既存よりも大容量のトランスに交換する。
 - ◆トランスを増設する。（キュービクルを増やす。）
- 大きく分けて上記の2つの方法がございます。

この2つの方法の内どちらを選択すれば良いかを、
お客様からのヒヤリングと現場調査させていただき中でご提案させていただきます。

ここで下記写真の実績から、施工方法選定までの流れをご紹介致します。

まず始めに、お客様のご要望として下記事項がございました。

- ・コストパフォーマンスに優れた施工方法である事。
 - ・停電可能な期間は3日間である事。（電源投入は可能な限り早めたい。）
- この2つのご要望を念頭に置き、施工方法を検討します。

続きまして、先にご説明しました電気容量を増やす2つの方法から、
どちらを選択すれば、お客様のご要望を満たせるかを考えます。

◆大容量トランスへの交換

- ・電気室の一番奥にトランスがある為、既存のフレームや盤を一次解体する個所が複数あり、コスト高である。
- ・狭い空間に人の投入も限られる為、施工時間も増えることが予想できる。（停電期間内には完了可。）
- ・大容量トランスの単価と、増設する場合のトランス単価を比較した場合、大容量トランスは割高である。

◆トランスの増設

- ・電気室手前に空きスペースがあり、そこへの増設が可能であった。
新設ではあるもののトランス交換の費用より抑えることができる。
- ・停電期間より前から、トランスの搬入や盤の設置を行うことが出来、
停電期間は幹線の繋ぎこみ等の作業のみなので、停電期間の短縮が可能である。

上記の理由から、今回のケースはトランスの増設で施工方法が決まりました。



※2017年1月 電気室内トランス増設工事実績

最後になりますが、弊社が仕事を受けた上で一番重んじている点は、
お客様のご要望にお応えすることです。

これができなければ、どんな良い提案であっても満足いただけないと考えるからです。

ただ、このご要望を満たすには、こんな方法やあんな方法もあるなどの、
少し視野を変えたご提案もさせていただき、より満足頂けるサービスをご提供いたします。